

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

女性ネットみやぎ10周年のついで  
**青い空は青いままで 脱原発と気候危機**

Part.1 ストップ! 女川原発再稼働! 運動のこれまでとこれから  
お話し/多々良哲さん(ストップ女川原発再稼働みやぎアクション)

Part.2 プロダイバーが伝える気候危機~知ることは希望  
講師/武本匡弘さん(気候活動家 NPO法人気候危機対策ネットワーク代表)

日時▶4月23日(土) 13:30~15:30 **参加費 500円**

会場▶仙台弁護士会館 4Fホール

主催:子どもたちを放射能汚染から守り原発から自然エネルギーへの転換をめざす女性ネットワークみやぎ

# みやぎ民医連

発行所 宮城県民主医療機関連合会  
仙台市青葉区木町通1-8-18  
〒980-0801 田村ビル5F  
TEL 022-265-2601  
FAX 022-263-8266  
e-mail:dai@miyagi-min.com  
発行人 坂田 匠  
1日・15日 月2回発行 1部50円



坂総合クリニック会場で講演する佐藤英仁氏

3月19日、県連主催の地域医療学習講演会が開催されました。東北福祉大学総合福祉学部の佐藤英仁准教授より「地域医療構想と地域医療の危機―4病院統合問題から考える―」と題してご講演いただきました。

はじめに、人口動態統計について説明されました。日本の総人口は2008年にピークとなり、2011年以降継続して減少し、2019年には27万6千人が減少しています。現在の日本は、年少人口が急激に減少している一方で、高齢人口は増加しており、今後ますます医師不足・看護師不足が深刻になること、医療保険・年金の財源不足によって、社会保障が維持できなくなる等、少子化による人口減少と関わる問題が指摘されました。

宮城県内の4病院統合のニーズ調査が必須だが、現在まで実施されておらず、ニーズ調査を県に実施させることが重要と訴えました。

なぜ、ここまでして統合したいのか。表向きは、増加傾向にある合併症への対応など、より高度な医療が提供できる体制構築を目指すとしているが、本当の理由は、①地域医療構想の厳守、②赤字の削減、③医師不足にあると指摘されました。

政府の地域医療構想は、2019年と比べ2025年までに約10万4千床の病床を削減する計画です。病床はすでに5万床以上削減されており、新型コロナウイルスの大流行で病床のひっ迫が大問題になったにもかかわらず、今なお病床削減の方針のままです。

また、赤字の削減に関して、公的医療機関は、

1と仙台赤十字病院、東北労災病院と県立精神医療センターをそれぞれ再編し、二つの拠点病院を新設する方針を県は明らかにしました。これらに統合は地域医療に大きく影響し、統合により病院が削減することになれば、地域住民に負の影響が出ることは確実です。

佐藤氏は、このような病院統合の際には地域住民のニーズ調査が必須だが、現在まで実施されておらず、ニーズ調査を県に実施させることが重要と訴えました。

3月19日、県南医療生協しばた協同クリニックを会場に、第9回目の原発被ばく健診を行いました。2014年1月に福島県との県境に位置する白石市越河地区の住民の方を対象に、採血・心電図・甲状腺エコー・医師による診察等の健診が開

## 白石市越河原発被ばく健診

### 健診活動を継続していこう

坂総合クリニック 診療サービス課 佐藤 千明

開始され、現在まで毎年行われています。

今回の健診には13歳、46歳までの6名が受診し、職員9名が要員として参加しました。

私は今回初めて要員として参加しましたが、受診者の方は以前から継続的に参加している方がほとんどであり、中には第1回の健診開催時から毎回必ず参加しているという方もいらっしゃいました。受診者の方からは「今後いつまで健診を実施してもらえるのか」という声もありました。

白石市は福島県との県境に位置しているため、放射能の影響も大きい地域だと考えられます。福島県では国や自治体から実施している健診を受ける機会もありますが、宮城県では公的な健診はありません。そのため、今後私たち自身が主体となって継続的に健診活動を実施していく必要があると思います。

東日本大震災から11年が経過し、第1回開催時に62名いた受診者も今年には6名となっています。

民間医療機関での診療が期待できない離島、山間地等へき地において重要な役割を果たしており、そもそも公的医療機関は赤字になります。「それだけの自治体は財政的に厳しい状況にあるが、国の一般会計予算の1%を病院補助金として給付し

赤字になります。」「それだけの自治体は財政的に厳しい状況にあるが、国の一般会計予算の1%を病院補助金として給付し



診察をする矢崎と子医師



しばた協同クリニックの看護師スタッフ

この間、県連の基金を活用して受診者の負担軽減を行い、白石市以外の自治体からも受診されていますが、今後の健診の在り方について考える時期でもあることを実感しました。

今後、受診者の参加しやすい日時設定や、自治体広報への掲載を通じた健診の宣伝も、重要になってくると感じました。

新型コロナウイルスの流行によりなかなか地域に出る機会が少ない中、こうした健診活動は貴重

な地域貢献のひとつであると考えられます。今後の継続のためには、被災者の方々へ寄り添った活動の担い手を民医連職員の中で育成していく必要もあると感じました。

決策を模索することが重要だと強調されました。私は坂総合病院の職員であり、塩釜市民です。厚労省が再編の検討を求めた424病院の中には塩釜市立病院も含まれています。今回の学習会を通して自分ごととして地域医療について考える必要があると感じました。国や県の今後の動向に注視していこうと思います。

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻。ある日を境にそれまでの平穏な日常を突然壊され、絶望と悲しみ、怒りの表情を浮かべ路上に立ちすくむ人々の姿に、11年前の東日本大震災直後の被災地の光景が重なります。▼自然災害とは異なり、独裁者と言っても過言でない元首の指示のもと、大国によって引き起こされている惨状。住宅地や病院、避難民の車列にすら容赦ない攻撃が加えられ、罪なき人々が殺されています。▼60年前のキューバ危機では、旧ソ連のキューバへの核ミサイル配備が発覚して米ソの緊張が高まり、核戦争寸前の状態となりました。ひとたび核兵器が使用されれば周辺国も否応なしに巻き込まれ、もはや勝者も敗者もありません。核廃絶こそすべての国が平和裡に共存するための大前提です。

今回の事態でも「軍備の増強」が侵攻の口実とされました。日本は憲法9条を堅持し、武力で他国を攻めることは絶対ないという立場をしっかりと示すことこそ、国民の安全を守る確実な道ではないでしょうか。▼春は本来希望に満ち、誰もが待ち望む季節です。ウクライナをはじめ世界各地で紛争に苦しむ人々が平和を取り戻せるよう、願ってやみません。

健康手帳

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻。ある日を境にそれまでの平穏な日常を突然壊され、絶望と悲しみ、怒りの表情を浮かべ路上に立ちすくむ人々の姿に、11年前の東日本大震災直後の被災地の光景が重なります。▼自然災害とは異なり、独裁者と言っても過言でない元首の指示のもと、大国によって引き起こされている惨状。住宅地や病院、避難民の車列にすら容赦ない攻撃が加えられ、罪なき人々が殺されています。▼60年前のキューバ危機では、旧ソ連のキューバへの核ミサイル配備が発覚して米ソの緊張が高まり、核戦争寸前の状態となりました。ひとたび核兵器が使用されれば周辺国も否応なしに巻き込まれ、もはや勝者も敗者もありません。核廃絶こそすべての国が平和裡に共存するための大前提です。

地域医療学習講演会

**4病院 統合・移転**

**住民や患者、医療従事者の 声を反映させた議論を**

坂総合病院 地域健康課 庄司 圭一

